

作成日：2024年4月1日

認定 NPO 法人 Switch

## 2023 年度日本財団助成事業報告書

就労や就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の設置及び伴走支援の実施事業

活動期間：2023年4月～2024年3月

報告者：NPO 法人 Switch 石巻 NOTE 園田凌、伊藤愛羅



はじめに

NPO 法人 Switch では、2023 年度日本財団助成金を活用し、『就労・就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の設置及び伴走支援の実施事業』を行った。当事業では「若年無業者が自分の将来と向き合い、就労・就学等主体的に自分の力で将来に向けて動き出せるようになること」を目的として、以下3つの活動を実施した。

①就労・就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の提供および就労・就学に向けた伴走支援の実施 ②出張居場所の開催 ③居場所を探索するためのワークショップの開催

また、対象となる若者の自己肯定感向上・サードプレイスに繋がること・マイナスを取り戻す多様な経験を積むこと・社会や他者とのつながりを増やすことを目標に1年間の活動に取り組んだ。

## 目次

I 年間の活動まとめ.....	3
II 事業内容.....	4
1. 就労・就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の提供および就労・就学に向けた伴走支援の実施.....	4
(1) 活動概要.....	4
(2) 活動の詳細.....	4
2. 出張居場所の開催.....	9
(1) 活動概要.....	9
(2) 活動の詳細.....	9
3. 居場所を探索するためのワークショップの開催.....	16
(1) 活動概要.....	16
(2) 活動の詳細.....	16
III 活動を通して明らかになった成果と今後の課題.....	22

## Ⅰ 年間の活動まとめ

R5 年度では、当法人の自主事業である就労・就学支援事業に加えて、就労・就学に困難を抱える若者たちの居場所創出・支援に重きを置いた 1 年となった。

第一に、若者が安心して過ごせる居場所が石巻圏域に不足していることに焦点をあて、多様な居場所を創出することを目的としてマップの製作を行った。

若者当事者と共に「居場所」を考えることから出発し、市内各所を徒歩で探索。その過程では若者たち自身が「自分の居場所」を意識しながら街歩きを行うことで、街にある自分の安心できる居場所を再認識するきっかけを提供することが出来た。

また、並行して実施した居場所聴き取りワークショップでは、探索で集めた情報を参加者の若者同士で見直す中で、その場所にいる時に感じられる感情やどんな時に利用したいかなど本人達の声を具体的に集めることが出来た。

その結果『若者居心地いいまっぷ』は当事者目線で堅苦しくなくポップで手に取りやすいマップとなり、対象像である「就労・就学に困難を抱える若者」に限らず幅広い属性の人々に楽しみながらご活用頂けるものとして完成した。

マップ内には選定した居場所を「安心スポット」として 23 件、圏域の地域資源を「お助けスポット」として 14 件掲載し、おすすめの過ごし方と共に紹介している。現在マップは教育・行政機関を含む圏域機関計 93 ヶ所に配布・設置しており、必要とする人々の手元に届くこと、そして石巻圏域に若者のための居場所が多様に生まれていくきっかけの一つとなることを期待したい。

そして、地域の様々な場所にスタッフが出向き若者が安心して過ごせる居場所を提供する『出張居場所』では、年間計 13 回、市内 6 か所での実施に成功、延べ 103 名もの若者が足を運んでくれた。

社会との繋がりが薄い若者は支援機関に出向くこと自体がハードルとを感じる為、予約不要で参加可能なこの取り組みではこれまで繋がらなかった若者にもリーチすることが出来た。実際に常設の居場所へ繋がったケースもあり、継続支援と結びつけることが出来たのは大きな成果と言える。また、開催と同時に行ったイベントでは講師に地域の大人を呼ぶことで、演劇やモノづくり、ボードゲーム、調理など多様な経験や交流体験を積むことが出来た。

1 年間の事業を通して、対象者である若者たちには居場所が必要であることと効果を実感した。今後も継続的に就労・就学支援と並行して困難を抱える若者たちの居場所支援を行っていきたいと考える。

## II 事業内容

### 1. 就労・就学に困難を抱える若者を対象とした居場所の提供および就労・就学に向けた伴走支援の実施

---

#### (1) 活動概要

当事業では若年無業者が安心して集うことができる居場所を設置した。居場所では個別相談や就労・コミュニケーション等に関する講座の開催、また石巻圏域での職場体験実習を実施し、対象者の就労就学に向けた伴走支援に取り組んだ。

#### ▶ 活動実績

期間：2023年4月～2024年3月

居場所開所日数：241日（月曜日～金曜日）※金曜日は午前中のみ開所

登録利用者数：62名（就労・就学に困難を抱える若者）

来所者数：延べ638名（就労・就学に困難を抱える若者）

相談件数：延べ1153件

就職決定者数：6名

就学・復学者数：2名

新規相談件数：28件

電話対応件数：309件

メール対応件数：201件

ZOOM対応件数：11件

#### (2) 活動の詳細

#### ▶ 個別相談について

常設居場所では対象者の個別相談を中心に、本人の興味関心に基づく進路決定のプロセスをサポートした。個別相談の内容は多岐にわたり、対象者の抱える困難は就労・就学に限らず生活や人間関係等、複合的な課題を抱えるケースが多くあった。

個別相談件数：396件（就労・就学：227件 生活：91件 対人関係：44件 体調：34

件)

## ▶ 実施講座について

実施回数：計 222 回（IT 系：1 回 セルフケア系：85 回 就活系：76 回 余暇系：60 回）

参加者数：計 134 名（IT 系：11 名 セルフケア系：54 名 就活系 69 名）

系統	内容
IT 系講座	キャンバとチラシ
セルフケア系講座	CBT（認知行動療法）・セルフマネジメント・WRAP（元気回復行動プラン）・セルフコンパッション・・・等
就活系講座	自己分析・求人情報について・応募書類の書き方・面接の受け方・敬語について・コミュニケーション（雑談・電話対応・報連相・頼み事・指示受け・GO サイン NO GO サイン）・・・等
余暇系講座	ストレッチダンス・ぬり絵・メイク UP・水平思考ゲーム・ジェルネイル・妄想トラベラー・ボードゲーム・かき氷・押しグッズづくり・国際交流（JICA）・つまみ細工・折り紙・クリスマス会・大掃除・初詣・書初め・ランニング・上品の郷・・・等

## ▶ 職場体験実習について

職場実習回数：計 15 回

職場実習参加者数：計 47 名

実習先：6 ヶ所（遠藤農園・狐崎浜・イシノマキファーム・パーラー山と田んぼ・フードバンク石巻・はまなすの里）

日付	実習先	参加者数	実習内容
6/10	遠藤農園	5 名	田植え作業
6/22	狐崎浜	4 名	貝殻指し
7/26	フードバンク石巻	2 名	仕分け作業
7/27	イシノマキ・ファーム	4 名	畑作業
8/1	パーラー山と田んぼ	3 名	調理補助
8/2	パーラー山と田んぼ	3 名	接客・調理補助
8/28	はまなすの里	5 名	老人ホーム見学
10/12	狐崎浜	3 名	貝殻指し
10/24	イシノマキ・ファーム	7 名	さつまいも収穫体験

11/24	フードバンク石巻	2名	仕分け作業
12/8	フードバンク石巻	1名	仕分け作業・フード回収
1/12	フードバンク石巻	2名	仕分け作業・フード回収
1/26	フードバンク石巻	2名	仕分け作業・フード回収
3/8	フードバンク石巻	2名	仕分け作業・フード回収
3/22	フードバンク石巻	2名	仕分け作業・フード回収

▶ 実習の様子



山と田んぼでの調理補助



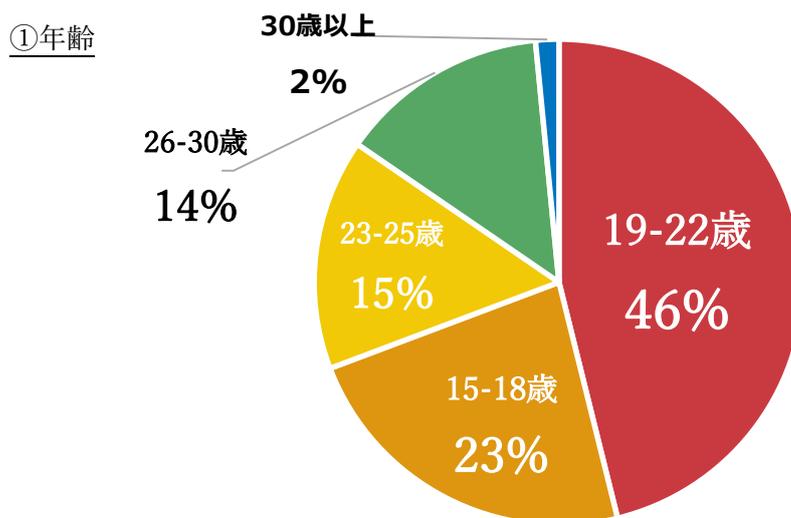
フードバンク石巻での仕分け作業



漁業実習の様子

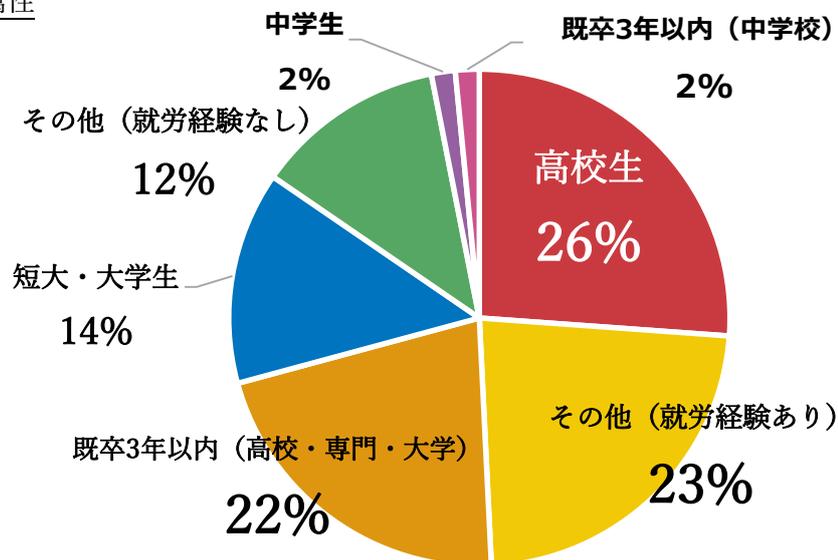
▶ 利用者の傾向

常設居場所を利用した就労・就学に困難を抱える若者の傾向について①年齢 ②属性 ③新規利用者の紹介元 ④特性などの4項目を円グラフを用いて割合表示した。常設居場所の利用者の数は62人である。



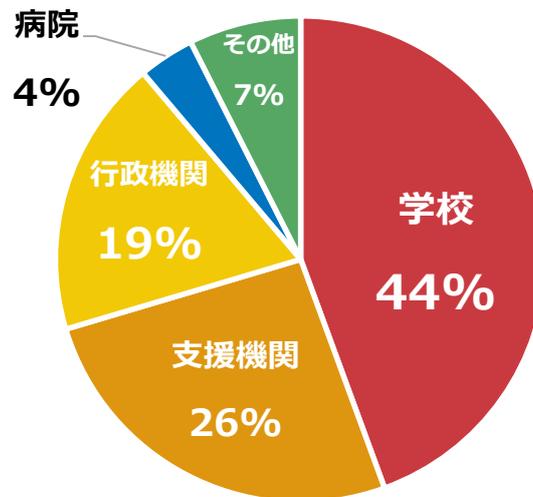
年齢は 19-22 歳の利用者が最も多く、約半数の 46%となった。次いで 15-18 歳が 23%、23-25 歳が 15%、26-30 歳が 14%、30 歳以上が 2%となった

②属性



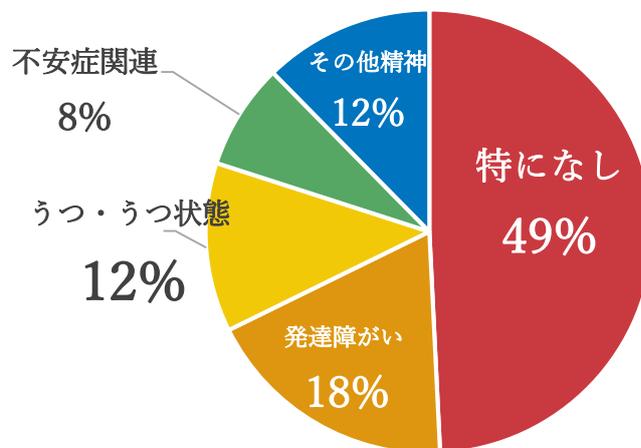
利用者の 26%は高校生で、就労経験はあるものの上手いかず居場所利用に繋がった層が全体の 23%となった。次いで既卒 3 年以内の利用者が 22%、短大・大学生が 14%となった。また、その他 (就労経験あり・なし)・既卒 3 年以内の数値を合計すると 58%であることから、利用者の属性は無所属が 6 割・学生が 4 割となることがわかる。

③新規利用者の紹介元



R5 年度新規利用者計 28 人の内、約半数である 44%の利用者が学校からの紹介で常設居場所の利用につながった。学校の内訳は主に圏域高校・大学で、中学校の SSW から紹介されたケースもあった。

#### ④特性など



利用者の半数は発達障がいや鬱病などの病気・障害を抱えていた。また、「特になし」49%の中には診断が付かないグレーゾーン層も含まれている。

## 2. 出張居場所の開催

### (1)活動概要

石巻圏域において、高校生～20代の若者が目的なく利用できる出張型の居場所を開催及び相談窓口を設置した。誰でも気軽に利用できるよう予約不要で開催した。出張居場所では講座講師を招来しイベントを実施、年間計6回の特別講座・ワークショップを開催した。

### ▶活動実績

期間：2023年6月～2024年2月

実施回数：13回

参加者数：延べ103名＋他機関見学者4名（通信制サポート校教員、居場所関係NPO職員・石巻市社会福祉協議会職員2名）

実施場所：6ヶ所（シアターキネマティカ（カフェ city lights）・北上川運河交流館・生協アイトピアホール・かわまち交流センター「かわべい」・石巻自由福音教会・ささえあいセンター）

利用者アンケート取得数：102件

出張居場所開催案内チラシ作成 10回（CANPAN登録）

### (3) 活動の詳細

#### ▶出張居場所の具体的な開催日時・場所

日付	開催場所	人数	特別講座
6/19	シアターキネマティカ（カフェ city lights）（石巻市中央1丁目3-12）	9名	
7/10	シアターキネマティカ（カフェ city lights）（石巻市中央1丁目3-12）	8名	ボードゲームWS
7/27	シアターキネマティカ（カフェ city lights）（石巻市中央1丁目3-12）	6名	
8/9	北上川運河交流館（石巻市水押3丁目6-6-9）	7名	
8/23	北上川運河交流館（石巻市水押3丁目6-6-9）	6名	スーパー竹とんぼづくり
9/4	生協アイトピアホール（石巻市中央2丁目7-3）	8名	魔法使いのお話
10/3	かわべいホール・広場（石巻市中央2丁目11-12）	6名	

10/19	かわべいキッチン・広場（石巻市中央 2 丁目 11-12）	9 名	調理実習
11/29	石巻福音自由教会（石巻市三和町 6-3）	9 名	
12/12	かわべいホール（石巻市中央 2 丁目 11-12）	4 名	
12/26	ささえあいセンター（石巻市穀町 15-2）	10 名	ダンス講座
1/18	石巻福音自由教会（石巻市三和町 6-3）	7 名	演劇のワークショップ
2/27	シアターキネマティカ（カフェ city lights）（石巻市中央 1 丁目 3-12）	11 名	ボードゲーム WS

### ▶ 出張居場所の様子

出張居場所では圏域の協力会場に交流スペースと個別相談スペースを設け、スタッフが常駐した。会場にはボード・カードゲームや飲食物、楽器、運動用具などを持ち込んでおり、利用者は各々興味のあるものを利用し交流したり、自分の好きなように時間を過ごした。尚、出張居場所は利用目的・予約連絡不要、出入りは自由というようにできる限りオープンな形で開催した。



▶ 特別講座・ワークショップについて

① ボードゲーム WS

【日時】2023年7月10日

【場所】カフェ city lights

【講師】石巻劇場芸術協会 阿部拓郎氏



シアターキネマティカを運営する石巻劇場芸術協会副代表・阿部拓郎氏によるボードゲームのWS。様々なボードゲームをご紹介・解説頂き、参加者はそれぞれ好きなゲームを通じて交流した。

② スーパー竹とんぼづくり

【日時】2023年8月23日

【場所】北上川運河交流館

【講師】国際竹とんぼ協会 高橋達郎氏



国際竹とんぼ協会会長・高橋達郎氏をお招きし、スーパー竹とんぼのつくり方をご教示頂いた。竹の板をカッターで削り出すところからじっくりと取り組んだ。

③ 魔法使いのお話

【日時】2023年9月4日

【場所】みやぎ生協アイトピアホール

【講師】魔法使い じゃがりこ氏



いちご農家で魔法使い、二束の草鞋で活躍する石巻出身マジシャン「じゃがりこ」氏によるマジックショー+生き方働き方のお話会。ステージに上がる参加者も現れた。

④ 調理実習

【日時】2023年10月19日

【場所】かわまち交流センター「かわべい」

【講師】家庭塾 高橋陽子氏



小学生の子どもたちを対象に料理の楽しさを教える「家庭塾」から高橋陽子先生を招来し、秋の味覚の調理実習に取り組んだ。

⑤ 演劇のワークショップ

【日時】2024年1月18日

【場所】石巻自由福音教会

【講師】石巻劇場芸術協会 矢口龍太氏



石巻劇場芸術協会・矢口龍太氏による演劇のWS。演劇で遊ぶことをテーマに、身体をつかったゲームやクイズに取り組んだ。内容はチームで協力し合うものが多く、参加者同士の交流に繋がった。

⑥ ボードゲームワークショップ

【日時】2024年2月27日

【場所】シアターキネマティカ

【講師】石巻劇場芸術協会 阿部拓郎氏



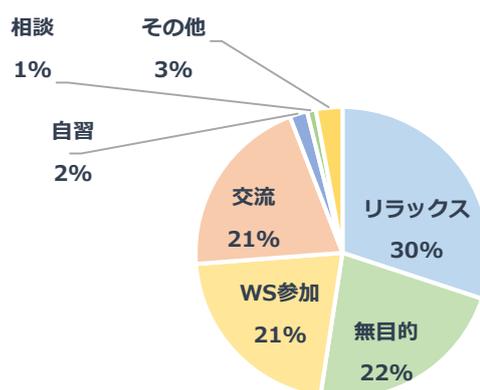
シアターキネマティカを運営する石巻劇場芸術協会副代表・阿部拓郎氏によるボードゲームのWS。ボードゲームを通じた交流に加え、劇場にセッティングされたTVゲームでも参加者同士交流した。

## ▶利用者アンケートより

出張居場所では利用者の安心感向上を目的として、利用の前後にアンケートを実施した。アンケートでは、【①今日の過ごし方/居場所でやりたいこと②話したいこと/聞いてほしいこと③居心地の良さ④居場所にあると良いもの/ほしいもの⑤今日の感想】の5項目について聴き取りを行い、当日の居場所運営や次回以降の環境改善に活用した。また、取得したアンケートを集計し、その結果を ①居場所利用の目的 ②居場所の満足度 ③利用者の声 としてまとめた。(アンケート取得数：102件)

### ① 居場所利用の目的

出張居場所利用前アンケートでは【今日の過ごし方/居場所でやりたいこと（自由記述）】の項目を用意し、利用目的の聴き取りを行った。回答内容はそれぞれリラックス・無目的・WS参加・交流・自習・相談・その他に分類して集計を行った。



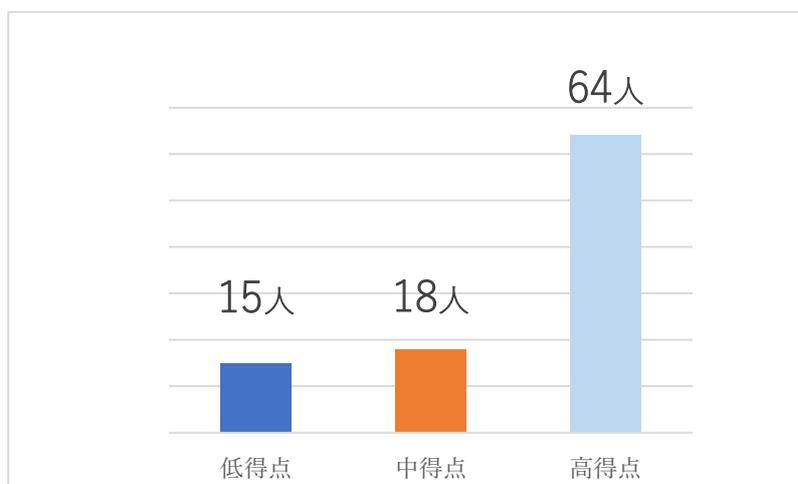
### ② 居場所の満足度

出張居場所利用後のアンケートでは【居心地の良さ】を100点満点で評価する設問を用意し、居場所の満足度を調査した。ここでは回答を集計し、点数の平均値・中央値・最低値・最高値・最頻値を表示した。(n=97)

平均値	中央値	最低値	最高値	最頻値
87.5	90	25	200	100

最頻値は100、中央値は90であることから多くの参加者が高得点で評価している一方で最低値は25となった。また、60点以下を低得点、90点以上を高得点としてそれぞれ

れの人数を集計したところ以下の通りになった。



### ③ 利用者の声 (抜粋)

- ・人と話す楽しさを思い出しました・・・
- ・ふだんこうした交流学校でできなかったからとてもよかった。
- ・マジックショーを生で初めて見たのでとても迫力がありました。悩みを聞いてもらえたので少しスッキリとしました！
- ・調理実習に参加しました。普段なかなかやることがないのでいい機会になりました。
- ・来る前は気分が乗らなかったけど、だんだん楽しめました。
- ・初めてだったけど緊張せずに居れて良かったです。
- ・複数で遊ぶのは今までわなかったですが今回してみてもたのしかったです。
- ・普段することのないゲームをして脳みそを使った。
- ・ボードゲームはとても難しかったですが、皆さん優しく教えて頂いてとてもありがたかったです。

### ▶ メディア掲載実績

地域の新聞にてインタビュー記事掲載 1 回 イベント情報掲載 3 回

- ・日々新聞 (8 月号 いしのまき NPO 日和にてインタビュー記事掲載)
- ・日々新聞 (8 月号 いしのまき NPO 日和にてイベント情報掲載)
- ・石巻かほく (11 月号 NPO イベント情報にて掲載)
- ・日々新聞 (11 月号 いしのまき NPO 日和にてイベント掲載)

### 3. 居場所を探索するためのワークショップの開催

---

#### (1)活動概要

石巻圏域の居場所になり得る場所の探索・聴き取りを当事者の若者と共に行うワークショップをそれぞれ8回ずつ開催し計16回実施。

収集した情報を元に『若者居心地いいまっぷ』を作成・発行した。当マップは圏域の行政・教育・関係機関等に計2000部配布した。また完成したマップを当法人webサイト内にてスマホ対応のwebページとして公開し、誰でもダウンロードし活用可能なものとした。

#### ▶活動実績

期間：2023年4月～2024年3月

場所：宮城県石巻市

開催回数：探索WS8回 / 聴取WS8回（内1回外部と連携し実施）

対象：計104名（就労・就学に困難を抱える若者）探索WS延べ51名参加、聞き取りWS延べ53人）

マップ発行部数：2000部（CANPAN登録）

マップ配布・設置先：93ヶ所（圏域教育機関11ヶ所、圏域行政機関30ヶ所、NPO等圏域関係機関35ヶ所、掲載協力機関17ヶ所）

WEB公開：当法人WEBサイトにて公開（<https://switch-sendai.org/igokochiiimap/>）（CANPAN登録）



←若者居心地いいまっぷサイト QRコード

#### (3) 活動の詳細

##### ▶探索WS詳細

探索WSでは石巻市街地を中心に若者たちが安心して過ごせる場所を就労・就学に困難を抱える若者たちと共に探索した。WS毎に探索エリアを決め、参加者を2～3名

のグループに分けてそれぞれ活動。指定の時間にチェックポイントを経由する決まりを設け、参加者同士のグループワークで探索ルートを決定する。探索終了後は事業所に集合し、見つけた場所や気になった場所を写真や言葉で共有した。

日付	参加者数	探索エリア
4/10	7名	中瀬公園周辺（かわまちエリア）
5/30	9名	羽黒町周辺・中央エリア
6/29	9名	立町・中央エリア
7/12	5名	石巻駅前エリア
7/31	7名	石巻中央アイトピア商店街
8/24	4名	石巻 NOTE 事業所周辺（鑄銭場エリア）
9/14	7名	石巻駅北エリア
2/29	3名	中央・かわまち・立町エリア

▽探索中に参加者に撮影してもらった石巻の風景

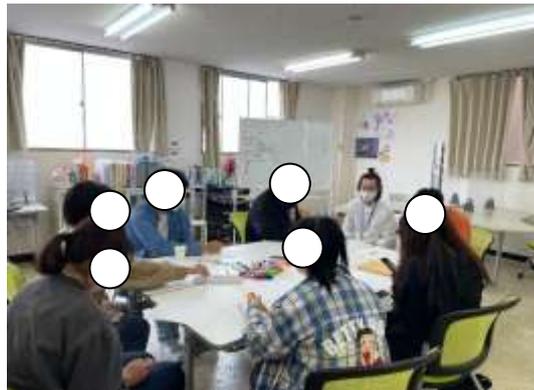


### ▶ 聴き取り WS 詳細

聴取 WS では開催毎に様々なテーマを設定し、「居場所」について共に考えながら、参加者が具体的に居場所だと感じられる場所の聴き取りを実施した。また、聴き取りの目的が居場所マップの制作であることを共有し、どんなマップをつくっていくべき

か、意見や目線を意識・聴き取りすることで、参加者と共にマップ作成を進めた。全8回開催の内1回は外部機関である石巻サポステの協力を得て実施した。

日付	参加者数	テーマ
5/15	7名	「みんなの居場所ってなに？」前編
6/15	9名	「みんなの居場所ってなに？」後編
7/5	9名	「石巻の地図を広げてみよう」
8/31	5名	「居場所のマップをつくるなら？」
10/13	5名	「居場所をイメージしてみよう」
10/23	5名	「みんなで作ろう居場所マップ」
11/20	5名	「居場所探し WS」※サポステ開催
1/10	4名	「若者居心地いいまっぷ」



▶ 外部機関（石巻サポステ）との連携

開催日時：2023年11月20日

場所：石巻地域若者サポートステーション

参加者：計 5 名（20 代女性 2 名、20 代男性 2 名、30 代男性 1 名）

これまで若者達と探索活動を行う中で収集した情報を元に、外部機関との合同ワークショップを行った。実際に利用したことはあるか、どんな場所であれば使ってみたいと思うか、他にどんな場所があるか等をテーマ別に話し合いたくさんの意見を頂くことが出来た。石巻地域若者サポートステーションはマップの中にあるお助けスポットとしても連携させていただき、繋がりを深めることも出来た。



### ▶ 若者居心地いいマップ製作詳細

デザイナーとの打ち合わせ

マップ内のイラスト、ロゴは製作に携わった若者へ依頼

掲載協力団体各種機関

- ・シアターキネマティカ（石巻劇場芸術協会）
- ・いしのまき MANGA lab. ヒトコマ
- ・内海商店
- ・駄菓子屋ジャンプ
- ・石巻圏域子ども・若者総合相談センター
- ・石巻市自立相談支援機関 ひありんく石巻
- ・一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ
- ・ハローワーク石巻
- ・マイペースここてらす石巻
- ・石巻市かわまち交流センター
- ・石巻市子どもセンターらいつ
- ・石巻市ささえあいセンター
- ・石巻地域若者サポートステーション





▶メディア掲載実績

地域の新聞にて取材 1 回、掲載 1 回

- ・河北新報（3 月号 石巻かほく NPO の広場にて掲載）

▶マップ配布の反響

- ・具体的で素晴らしい、石巻圏域にこんな場所があるんですね。（行政機関の方）
- ・観光マップよりも必要なマップだと思いました、是非みんなに読んでほしいし困難を抱えた若者以外の方が読んで楽しめますね（広報誌担当の方）
- ・地元の若者はもちろん、観光客の方々に案内する際にも使用させていただきます。（街づくり関係者）
- ・ポイントがまとまっているので、散策中に気になった所に入りやすいし歩きやすい（製作に携わった若者）
- ・とてもいいマップなので、全校生徒に配布します（学校関係者）
- ・保健室に設置して、生徒が手に取れるようにしますね（学校関係者）
- ・皆さんの目に留まり、活用してもらえるように呼び掛けていきたいと思ひます。

(地域若者サポートステーションの方)

▽掲載の様子 (駄菓子屋内海商店)



▽掲載の様子 (シアターキネマティカ)



### III 活動を通して明らかになった成果と今後の課題

今年度、常設の就労・就学支援事業 (NOTE 事業) に加えて、就労・就学に困難を抱える若者たちの居場所創出支援を行う中で若者が安心して過ごせる居場所を構築することができた。一方で、紹介されてくる若者の困難は年々深化しており、就労までの道のりがスムーズにいかず長期化する傾向にある。多くの経験を要し、読み書きそろばん等の基本的な能力が身につけていないことや、生活スキルの足りなさなど多岐に渡る脆弱性を持っていることも原因となり、就労・就学に結びついた対象者は少なかった。

このことから、対象者達が就労・就学に向けた一歩を踏み出すための土台を構築するには、失敗してもやり直しが可能で自信を身に付けられる環境や、経験格差の解消ができる支援を居場所にプラスして行う必要があると感じた。

次年度以降の事業では上記の支援に力を入れて、対象者が自分自身の力で就労・就学等に一步踏み出すことができ、自分らしい生き方を実現できるようになる支援を提供していく。

